

西目高生 実習田で稲刈り

由利本荘市 大型コンバイン操縦



西目高校（由利本荘市）の農業科学系列3年生13人が9日、同市の実習田で稲刈りを行った。地元の農業法人・折林ファームが所有する大型機械を操縦し、従来の機械との違いを体感した。

西目高校では生徒の就農意欲を高めようと、農機メーカーや地元の農業法人と連携し、農業の最新技術を学ぶ場づくりに力を入れている。

折林ファームのコンバインは、同校が所有するコンバイン

折林ファームの大型コンバインを操縦する生徒

と比べて一度に1・5倍の量を刈り取ることができ、もみを収容するタンクも大きく、従来より作業効率を高められる。生徒はコンバイン2台をそれぞれ操縦。ひとめぼれの稲を刈り取り、作業スピードの違いに驚きの声を上げていた。

大型コンバインを操縦した伊藤輝太さん（17）は来春から

折林ファームで働く予定。「最初は刈り取り部の位置を調整するのが難しかったが、慣れたらスピードを出すことができ、楽しかった。今後は働きながら新しい技術をどんどん吸収していきたい」と話した。

収穫したコメはJA秋田しんせいに出荷するほか、来月1日に開かれる学校祭で販売する。2万1400円、300万4000円の予定。

（大谷好恵）